



広島地区国道 2 号沿道環境社会実験協議会

第 2 回 協議会資料

= 目 次 =

1 . 第一回協議会での主な意見とその対応について	1
1 - 1 . 第一回協議会内容	1
1 - 2 . 実験における課題と対応策	1
2 . 調査計画	5
2 - 1 . 調査計画表	5
2 - 2 . 調査箇所図	6
2 - 3 . 調査スケジュール	7
3 . 料金割引以外の実験中の方案について	8
4 . 広報・PR 計画	9
4 - 1 . 広報・PR 計画	10
4 - 2 . 道路情報版、横断幕、看板設置一覧	10
4 - 3 . ポスター・チラシ配布先	13
4 - 4 . ホームページ（広島国道事務所）	14
4 - 5 . 実験速報の公開について	15

平成 16 年 11 月 18 日（木）

1. 第一回協議会での主な意見とその対応について

1-1. 第一回協議会内容

決定事項

<p><< 実験内容 >></p> <p>対象区間：山陽自動車道・広島岩国道路 志和IC～廿日市IC間（全ICペア対象）</p> <p>実施機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1クール：12月1日（水）0:00～12月20日（月）24:00 ・第2クール：1月15日（土）0:00～2月15日（火）24:00 <p>対象車両：中型車、大型車、特大車</p> <p>実施時間：終日（24時間）</p> <p>料金体系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1クール：約5割引 ・第2クール：約8割引 <p>キャッチコピー</p> <p>「使える」ハイウェイへ！『トラックDEエコ作戦』</p>

検討課題

<p>山陽道の交通量増加への対応</p> <p>実験による山陽自動車道の交通量増加に伴い、混雑が発生する可能性がある。</p> <p>国道2号 志和IC入口交差点における八本松方面からの右折交通の対応</p> <p>国道2号志和IC入口交差点の八本松方面からの右折交通において、実験により交通量が増加することで、混雑が発生する可能性がある。</p> <p>山陽道 志和ICオフランプの交通渋滞の対応</p> <p>山陽道志和ICの流出方向において、実験により交通量が増加することで、本線上の渋滞が増加する恐れがある。</p> <p>料金所直後でのUターン対策</p> <p>ドライバーは、高速料金を少しでも安くするために、料金所直後でUターンをする可能性がある。</p> <p>危機管理体制</p> <p>実験時に想定される渋滞などの情報を随時把握し、適切な対応ができるような体制にしておくことが必要である。</p> <p>実験内容に誤認がないよう利用者に正確な情報を伝える必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象車両（中型車・大型・特大車の3車種について） ・実施時期（年末年始は対象外） ・対象区間（対象区間外からの利用など）

1-2. 実験中における課題と対応策

1) 実験中の課題と対応策

第1回協議会内容をふまえ、実験中に想定される課題とその対応策を下表にまとめた。

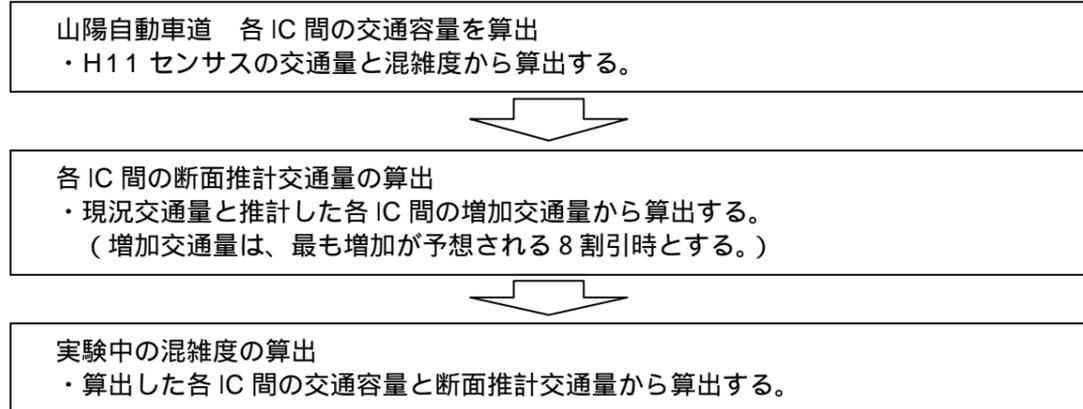
懸念事項	現況	課題	実験中（予測）	課題への対応
山陽自動車道の交通容量	志和IC～広島東ICにおいて、最も断面交通量が多い。 ・現況：54,688台/日 ・容量：62,600台/日（H11センサス）	大型車が増加することで、山陽自動車道の容量超過が懸念される。	志和IC～広島東IC間の断面推計交通量は、交通容量を満足。（8割引時） ・断面：59,638台/日 ・増加台数：4,950台/日 ・混雑度0.95<1.0を満足	実験期間中、定期的に見回りを行い、状況を確認する。
国道2号 志和IC入口交差点における八本松方面からの右折交通の渋滞	夕ピーク時（17時～18時）において、八本松方面からの右折車両が最も多い。 ・現況：420台/日 ・容量：716台/日 ・渋滞状況 右折車線に若干滞留	右折交通が増加することにより、国道2号本線への影響が懸念される。	夕ピーク時（17時～18時）において、八本松方面の右折車線の交通容量を満足。（8割引時） ・推計値：551台/時 ・増加台数：131台/時 ・容量：709台/時 ・右折車線の混雑度0.715<1.0を満足	実験期間中、定期的に見回りを行い、渋滞状況の確認を行う。
山陽自動車道 志和ICオフランプの交通渋滞	朝ピーク時（7時～8時）、志和IC流出方向において、本線まで交通渋滞が発生。 ・料金所：4レーン（1レーンETC専用）	本線上の渋滞長が増加する恐れがある。	朝ピーク時（7時～8時）において、志和IC出口において、渋滞が発生 ・増加推計値：124台/時 ・増加渋滞長 最大約1240m	各IC入口に「志和IC混雑」の看板を設置し、利用者に注意を促す。 実験広報に併せ各種媒体に「志和IC混雑」を明記し、他の時間帯での利用を促す。 ・チラシ、新聞、TV、ポスター等渋滞最後尾に後尾警戒を配置する（JHと協議）
山陽自動車道 各IC料金所直後のUターンによる危険性	-	料金所や現道との接続部でUターンし、交通の混乱を招く恐れがある。	山陽道の対象区間において、効率的な高速料金とするため、ICを一時的に乗り降りし、料金所直後をUターンする車両が発生する可能性がある。	志和IC、廿日市ICにおいて、Uターンできないよう物理的な柵を設ける。 実験中Uターン車両が確認された場合、立て看板を設置する。
危機管理体制	-	非常時に対応できる体制を確立しておく必要がある。 対象車両や実施期間、対象区間などについて、利用者に実験内容を正確に伝える必要がある。	実験時に想定される渋滞などについて、情報を把握し、的確な対応を行うことが必要。 対象車両や実施期間、対象区間などについて、質問や苦情等が発生する恐れがある。 実験による混雑で、対象車以外から苦情の可能性はある。	実験中、パトロール車やモニター等から交通状況を随時報告してもらい、状況把握に努める。 緊急時の連絡体制の構築 本実験専用のフリーダイヤルを設置するとともに、対応マニュアル（Q&A）を作成する。 ポスター、チラシ、立て看板等に実験内容を明確に提示し、正確な内容を伝える。

2) 懸念事項の検証と対応

山陽自動車道の交通容量

本実験を行うことにより、大型車交通量の増加が予想され、山陽自動車道が混雑することが予想される。そこで、割引による増加交通量が山陽自動車道本線の交通処理に影響を与えるかどうか、山陽自動車道の交通容量と割引による増加交通量との需給バランスについて検証した。

検証方法



検証結果

実験の影響が最も出ると予想される志和 IC ~ 広島東 IC において、混雑度 0.95 と予想されるが、混雑度 1.0 未満であることから、実験による増加交通量の影響はほとんどないと予想される。他の区間においても、混雑度が 1.0 未満を予想されるため、実験対象区間においては大きな影響はないといえる。

		廿日市IC	五日市IC	広島JCT	広島IC	広島東IC	志和IC
H11 センサス	交通量 (台/日)	27,282	41,753	41,358	44,524	50,700	
	混雑度	0.56	0.42	0.51	0.71	0.81	
	交通容量 (台/日)	48,700	99,400	81,100	62,700	62,600	
実験中	現況交通量 (台/日)	28,242	40,112	40,095	46,741	54,688	
	増加台数 (台/日)	2,377	3,910	3,910	4,249	4,950	
	交通量 (台/日)	30,619	44,022	44,005	50,990	59,638	
		⇩	⇩	⇩	⇩	⇩	
	混雑度	0.63	0.44	0.54	0.81	0.95	

交通容量 = 交通量 ÷ 混雑度
交通容量は、十の位を四捨五入している。

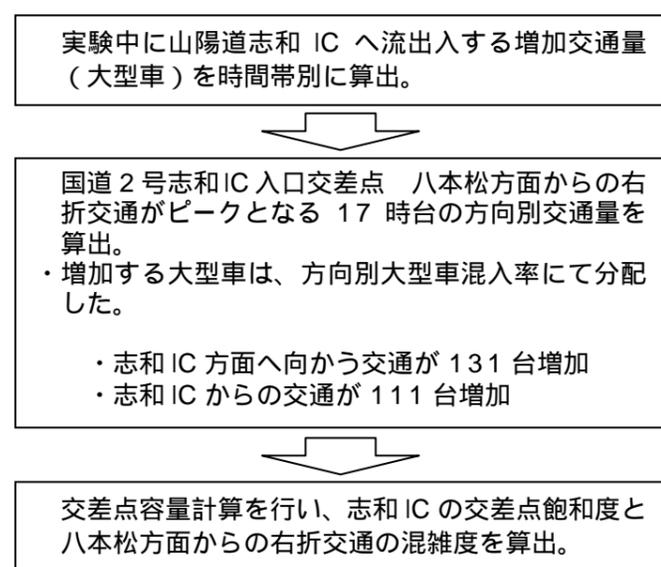
出典: 交通容量 (H11 センサス)
現況交通量 (平成16年10月28日)

図 1 - 1 実験中における山陽自動車道の需給バランス

国道 2 号 志和IC入口交差点における八本松方面からの右折交通の渋滞

本実験を行うことにより、志和 IC を利用する大型車の増加が予想される。そのため、志和 IC 入口交差点の特に八本松方面からの右折車線において、渋滞の発生が懸念されるため、交差点容量計算を用いて右折車線の混雑度について検証した。

検証方法



検証結果

8 割引にした場合の推計交通量においても、八本松方面からの右折交通の混雑度は 0.715 と交通容量を満足していることから、右折交通が原因で渋滞する可能性は低い。交差点飽和度においては、8 割引にした場合、0.996 と高くなる可能性がある。実験期間中、国道のパトロール等により状況を報告してもらうとともに、事務局においても、逐次確認を行うものとする。

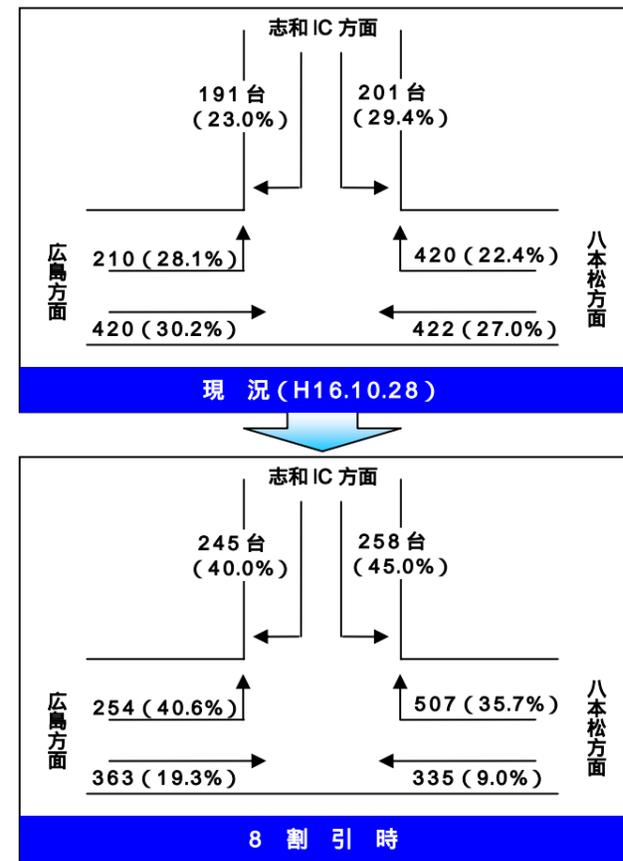


表 1 1 国道 2 号 志和 IC 入口交差点の検証結果

流入部 車線種類	現況					8 割引				
	八本松方面		広島方面		志和IC方面	八本松方面		広島方面		志和IC方面
直進	422	630	201	191	335	507	617	258	245	
右折	420	298	368	1,337	709	1,000	274	333		
交通量	422	420	630	201	191	335	507	617	258	245
交通容量	1,195	716	1,000	298	368	1,337	709	1,000	274	333
混雑度	0.353	0.587	0.630	0.674	0.519	0.251	0.715	0.617	0.942	0.736
交差点飽和度	0.853					0.996				

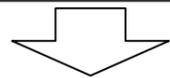
出典
交通量: H16.10.28 (事前調査結果)
信号現示: H16.10.13 (県警データ)

山陽自動車道 志和ICオフランプの交通渋滞

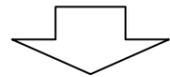
本実験により、志和ICを利用する大型車の増加が予想され、志和IC流出方向において、本線上の渋滞長が増加する恐れがあることから、実験中（8割引時）の推計流出交通量を用いて検証を行った。

検証方法

山陽道 志和ICを流出する増加交通量（大型車）を時間帯別に算出
 ・志和ICを流出する増加交通量に時間帯比率を乗じて算出する。



検証する時間帯の設定
 ・算出した増加交通量が最も多い時間帯（7時～8時）を設定する。

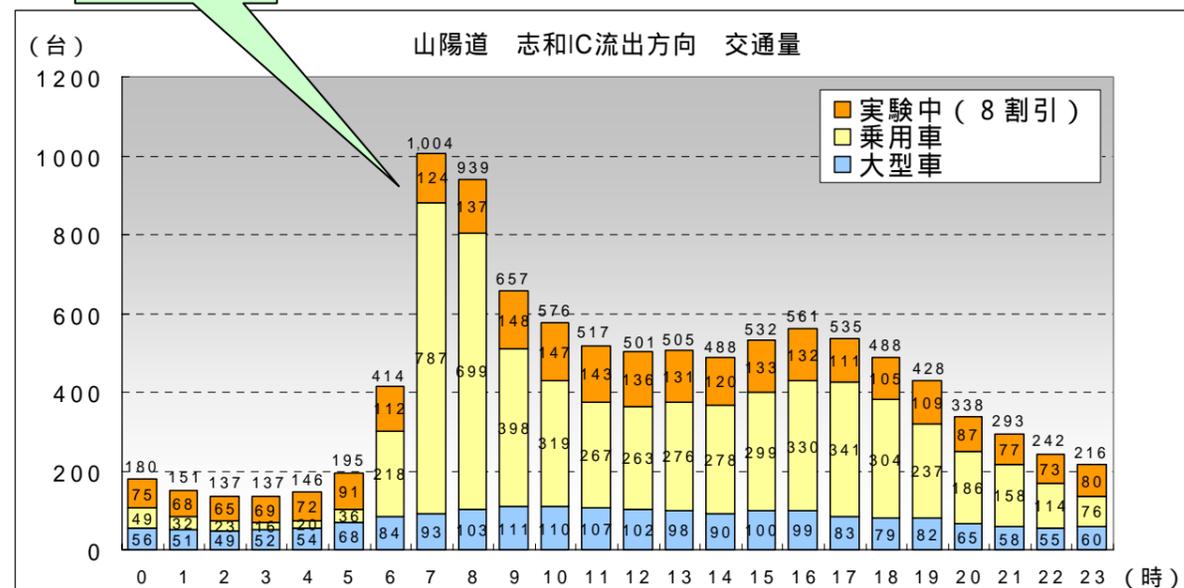


志和ICの渋滞長の算出
 ・現状でピーク時間帯において混雑しており、増加交通量そのまま滞留すると仮定

志和IC交通量の増加（8割引）

8割引時の山陽道 志和ICにおける時間帯別流出交通量を以下に示す。

滞留長が最大となる時間帯



出典：平成15年11月平均値

志和ICの渋滞長の算出

8割引にすることで増加する大型車交通量は、124台である。

1台を10mと仮定すると、増加渋滞長については124台×10m=1240m

8割引での実験期間中、最大で1240mの渋滞が増加する可能性がある

対応策

朝ピーク時における志和ICの渋滞対策としては、以下の内容を実施する。

実験区間内における山陽自動車道各IC入口に「志和IC混雑」の看板を設置し、注意を促す。

・設置箇所：志和IC、広島東IC、広島IC、五日市IC、廿日市IC

実験広報に併せた以下の各種媒体に「志和IC混雑」を明記し、他の時間帯での利用を促す。

・広島国道事務所ホームページ・・・社会実験の宣伝ホームページに注意書きとして表示する。
 （関係機関にはリンクし、周知拡大を図る。）

・チラシ広告・・・実験チラシに注意書きを記載する。

・新聞広告・・・新聞広告に注意書きを記載する。

・テレビCM・・・テロップとして表示する。

・ラジオCM・・・コメントとして取り扱う。

注意書き「朝7時から9時までの通勤時間帯には、志和ICにおいて混雑が予想されますので
 できるだけご利用をお控えください。」

テロップ「志和IC付近 朝7時～9時の通勤時間帯 混雑」

本線上の渋滞による追突防止のため最後尾にパト車等による後尾警戒を配置する。（JHと協議）

山陽自動車道 各IC料金所直後のUターンによる危険性

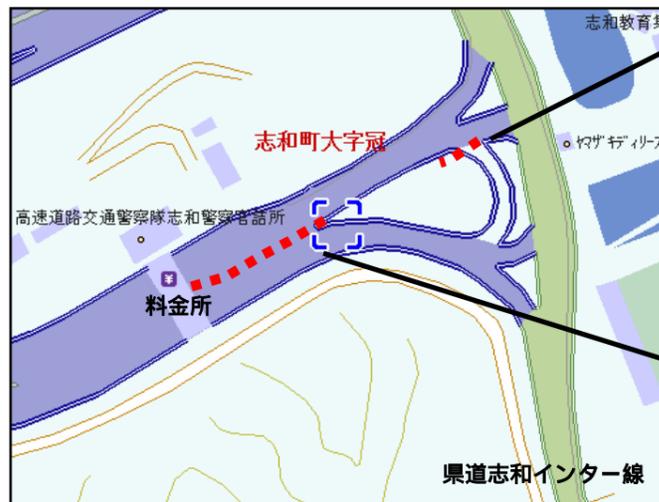
本実験中、ドライバーにとって効率的な高速料金とするため、実験対象区間内の各 IC 出口で一時的に乗り降り（Uターン）する車両が発生する可能性があり、交通の混雑を招く可能性がある。

対応策

志和 IC、廿日市 IC において、Uターンできないよう物理的な柵を設置する。
実験期間中に実験に伴うUターン車両が発生した場合、追加でUターン禁止のお願い看板を設置する。

< 志和IC >

志和 IC では、下図のように U ターン対策を行う。



< 廿日市IC >

廿日市 IC では、下図のように U ターン対策を行う。



危機管理体制

緊急時や実験時に想定される渋滞等を把握するため、情報収集を行う。

- ・山陽道や国道 2 号のパトロール実施時に交通状況に変化がある場合、随時連絡をいただく。
- ・モニターに対しても、交通状況を報告していただく等、現状の情報収集に努める。

緊急時の連絡体制

広島地区国道 2 号沿道環境社会実験協議会 事務局
・広島国道事務所 調査設計第一課 TEL : 082-281-4131

各種関係機関

- ・広島県警察本部交通部交通規制課 TEL : 082-228-0110
- ・広島県警察本部交通部高速道路交通警察隊 TEL : 082-877-6993
- ・日本道路公団 中国支社 TEL : 082-212-4111
- ・日本道路公団 広島管理事務所 TEL : 082-879-2995
- ・広島県トラック協会 TEL : 082-264-1501

PR 等に対する注意

対象車両が限定されていることや対象区間外からの交通は割引対象外であることなど、本実験内容が利用者に正確に伝わらず、質問や苦情等が発生する可能性があることから、以下の対応策を検討した。

本実験専用のフリーダイヤルを設置するとともに、対応マニュアル（Q&A）を作成する。
ポスター、チラシ等の実験内容を明確に提示する。
各 IC 入口に、割引料金が適用される IC 等の立て看板等を設置する。

< 電話対応マニュアル（案） >

質問	回答
割引の対象となるインターチェンジは？	・山陽自動車道志和 IC から広島岩国道路廿日市 IC までの区間内で乗り降りした車両が対象。 ・対象区間外から対象区間に乗った場合は、割引料金にはならない。
対象車両は？	・高速料金区分で中型車、大型車、特大車の 3 種類。 ・一般的にはナンバーの頭が 1, 2, 9 と 8 の一部 ・一般車両・ETC 車両共に対象。
実験時期は？	・ 5 割引が 12/1 0:00 ~ 12/20 24:00 ・ 8 割引が 1/15 0:00 ~ 2/15 24:00 ・ 年末年式間は実施しません
なぜこの区間か？	・広島都市圏における国道 2 号の騒音の低減を目的としており、国道 2 号との接続が容易な志和 IC ~ 廿日市 IC 間を対象としている。
なぜこの車種を対象としたのか？	・実験の目的である環境改善（騒音）の実証を行うため、より騒音の大きいと考えられる車両を対象としている。
他の ETC 割引との関係は？	・実験期間中は、対象区間内のみ実験の割引料金が適用。 (ETC 割引と重複した場合は割引額の大きい本実験の割引が適用される。)
モニターに登録するとメリットがあるのか？	・登録した企業は、協議会 HP やテレビCM等で PR を行う。 ・貢献度に応じて協議会より表彰を行う。
モニターの登録方法は？	・フリーダイヤル(0120-004-812)に問い合わせすれば、申込み用紙を FAX し、必要事項を書き込み送信。
実験後、料金はどうなるのか？	・今回は社会実験であり、実験終了後は通常の料金に戻る。

2. 調査計画

2-1. 調査計画表

調査種類	調査目的	本実験への活用	想定されるアウトプット	調査時期	調査時間	調査概要	調査箇所	
アンケート調査	貨物車ドライバー	高速道路利用の現状の把握 経路選択における容量性の把握 社会実験における高速道路利用意向の把握 高速道路利用を促す方策の検討 実験実施による高速道路利用に対する意識変化の把握 実験期間中のドライバーとしての意見の把握	割引料金を決定する参考資料として活用 料金割引以外の方策の参考資料として活用 モニター登録者に実験期間中、随時意見を頂き、本実験の参考にする。	【実験前】 ドライバーの高速利用の現状 求められるサービス内容 持続可能な料金体系 【実験後】 持続可能な料金体系 実験による高速利用者の変化 高速利用、沿道環境に対する意識変化 高速道路利用の定着（残留効果）	実験前5日間 実験後1回	夜間12時間	国道2号沿道のドライバーに調査票配布 ・直接配布、郵送回数 ・配布枚数：1,000票（回収150票） 事業所アンケートと同封 ・事業所アンケート参照 【配布状況によって配布時間帯変更（延長）】 実験後調査 ・モニター登録車両にアンケートを行う。	・本郷町本郷ドライブイン ・スポーツ公園入口付近コンビニ ・佐方SA ・大野町役場付近コンビニ
	トラック運送事業者	企業としての高速道路利用の現状把握 道路環境問題に対する認識と環境対応策の現状把握 社会実験への意見と協力意向把握 高速道路の利用促進に向けた方策の検討と仕組みづくり 実験実施による高速道路利用に対する意識変化の検証	料金割引以外の方策の参考資料として活用	【実験前】 企業としての高速利用の現状 求められるサービス内容 持続可能な料金体系 【実験後】 持続可能な料金体系 実験による高速利用者の変化 高速利用、沿道環境に対する意識変化	実験前1回 実験後1回		トラック協会加盟企業 全1,700社 ・郵送配布、郵送回数 ドライバーアンケートも同封（3票/社） 実験後調査 ・モニター登録企業にアンケートを行う。	
	割引対象の山陽自動車道利用貨物車	割引による普通貨物車の高速道路利用の変化の把握 山陽自動車道を利用した理由などを把握 起終点・交通目的など交通の種類ごとに、値下げに伴う交通経路変更や利用頻度の変化を調べ、転換交通需要と推計手法を検証 料金値下げに対する利用者意識を把握 割引率と転換交通需要との関係を検証		実験による国道2号からの転換量 実験の認知度 転換交通需要推計手法の検証 高速道路利用の定着（残留効果）	実験中2回	24時間	IC料金所出口にて普通貨物車に調査票配布 ・直接配布、郵送回数 ・実験中2回 24時間 ・配布枚数：10,000枚（回収1,500枚） H15年11月実績 8,000台	・志和IC ・広島東IC ・広島IC ・五日市IC ・廿日市IC
	沿道住民アンケート	沿道における現況の騒音状況を把握 実験による環境改善効果を定性的に評価 実験による交通の転換を定性的に評価		沿道住民からみた国道2号の現状の騒音状況 大型車の減少による騒音の変化を定性的に評価（環境改善効果） 実験による国道2号の交通量（大型車）の減少	実験中1回		騒音調査箇所付近の世帯に配布。 ・直接配布、郵送回数 ・実験中1回 昼間12時間 ・配布枚数：1000枚（回収約150枚） 1箇所200世帯×5箇所	騒音調査箇所 ・上瀬野 ・中野東 ・昭和町 ・古江上 ・廿日市市内
交通関連調査	旅行速度調査	料金時間差転換率式（道路公園）を用いた推計値の妥当性を検証 割引による交通流動変化に伴う旅行速度の変化を検証 実験前と実験中の交通転換量を検証する資料とするため、実験後の調査は実施しない（調査2回）	転換交通需要推計手法の検証 大型車の減少による旅行速度の変化	実験前1回 実験中1回		各IC間を結ぶ現道（9区間） ・平日17時間 朝ピーク（7時～9時）1回 夕ピーク（17時～19時）1回 昼オフピーク（10時～16時）2回 夜間（22時以降）1回	1 志和IC～廿日市IC 2 志和IC～出汐交差点 3 出汐交差点～廿日市IC入口交差点 4 広島東IC入口交差点～出汐交差点 5 広島IC接続部～市役所前交差点 6 五日市IC入口交差点～田方橋北詰交差点 7 五日市IC入口交差点～木船交差点 8 広島東IC入口交差点～広島IC接続部 9 広島IC接続部～五日市IC入口交差点	
	騒音調査（断面交通量）	山陽道への交通転換に伴う騒音低下を計測し、環境改善効果を把握 連続で測定し、実験経過に伴う、実験前・実験中・実験後における交通量の日変動に伴う改善効果を把握 観測交通量を用いて騒音予測を行い、実験による交通転換の影響を分析する	大型車の減少による騒音の変化（環境改善効果） 交通量の日変動と騒音の関係 高速道路利用の定着 騒音予測の妥当性	騒音調査 実験前1週間 実験期間中 実験後1週間 断面交通量 実験前1回 実験中1回 実験後1回	24時間	騒音調査 ・騒音計を用いて観測 交通量調査 ・人手にて観測 ・4車種分類 ・上下2方向 国道2号のトラカン活用 ・八本松飯田 ・竹屋町 ・田方町	道路官民境界 ・上瀬野 ・中野東 ・昭和町 ・古江上 ・廿日市市内	
	IC間断面交通量調査	割引による山陽自動車道の交通量の増加を把握 実験後にも調査を実施し、実験による高速道路利用定着効果を検証 （交通量の日変動をトラカンデータを用いて把握）	実験による山陽自動車道の交通量の増加 転換交通需要推計手法の妥当性 高速道路利用の定着 山陽道の交通量の日変動	実験前1回 実験中1回 実験後1回	24時間	人手にて観測 ・4車種分類 ・上下2方向 道路公園のトラカン活用 （10月下旬～2月連続）	・奥屋PA ・宮島SA	
	山陽自動車道ICペア間交通量	各インターペア間における交通量増加量を把握し、料金と転換需要との関係を把握 料金弾性値を求め、効果的な割引方法を検討		転換交通需要推計手法の妥当性 持続可能な料金体系 実験による山陽道の交通流動の変化			道路公園のデータを活用 ・ICペア間交通量 ・指定勤務明細	
	国道2号交差点交通量	山陽自動車への交通転換に伴う交通流動の変化を、山陽自動車道ICを流し出す交通が通過する国道2号交差点を対象として検証 国道2号の交差点付近での断面交通量の変化を検証 （2号断面交通量の日変動をトラカンデータを用いて把握）		主要交差点における交通流動の変化 国道2号の交通量の日変動	実験前1回 実験中1回 実験後1回	24時間	人手にて観測 ・4車種分類 ・全方向 断面交通量補完・国道2号トラカン ・八本松飯田 ・竹屋町 ・田方町 ・大竹市西栄	・志和IC入口交差点 ・出汐交差点 ・市役所前交差点 ・田方橋北詰交差点 ・廿日市IC入口交差点

3. 料金割引以外の実験中の方案について

貨物車両等の大型車の高速道路への転換については、各トラック運送事業者の協力が必要不可欠であることから、実験に参加することで参加企業のメリットとなる方案を実施する。
 具体的には、社会実験の主旨に賛同し、山陽自動車道の利用を促進する企業について、PRを行うとともに、協力度の高い企業に対して、最終的に協議会から表彰を行う。

企業・車両のモニター登録について

モニターについて

実験に参加する企業をモニター企業として登録し、その企業に属する車両（ドライバー）をモニター車両として登録する。
 登録車両は、実験対象区間を利用する可能性のある車両とし、車両数には制限は設けない。
 登録受付期間は、平成 17 年 1 月 10 日（月）までとする。
 登録車両には、ステッカーを配布し、実験参加への意欲向上を図る。
 モニター登録者については簡単なアンケート等をお願いする。

登録方法

広島県トラック協会等に参加している企業約 1,700 社を対象に、モニターを募集する。
 ・ダイレクトメールには、モニターの説明文、申し込み用紙、チラシ、ポスターを同封する。
 広島県トラック協会に参加していない企業については、実験ホームページ、チラシ等に記載してあるフリーダイヤル（0120-004-812）等から登録を受け付ける。
 所定の用紙に企業名、住所、連絡先、担当者、登録車両台数、ナンバー、運転手、保有車両数、現段階で高速道路を利用しているかどうかを書き込んだ上、FAX にて申し込みを行う。

表彰内容

実験期間中、実験対象区間の山陽自動車道を利用する頻度（ポイント）の高かった企業に対して、以下の表彰を行う。
 モニター登録車両が実験対象期間を利用することにポイント加算する。
 ポイントの集計期間は、実験期間中（12/1～12/20 及び 1/15～2/15）を対象とする。

表彰内容

- ・実験に最も貢献した企業に対する表彰（実験期間中、対象区間を最も多く利用した企業）
 企業が登録した車両のポイントの総数を集計し、ポイント数の一番高い企業に対し、表彰を行う。
- ・協議会特別賞
 車両 1 台あたりの平均や、国道 2 号から山陽道に最も多く転換した車両等を総合的に勘案し、協議会特別賞として表彰を行う

モニター登録のメリット

登録した企業には、実験ホームページ、新聞、テレビ CM 等で企業 PR を行う。
 ・ホームページ、新聞には、実験参加企業として企業名を載せる。
 ・テレビ CM には、実験協力企業としてテロップで表示させる。
 実験期間中、実験対象区間の山陽自動車道を利用し、実験への貢献度が高かった企業、に対して、協議会から表彰を行う。

ポイントの収集方法

- ・モニター登録カードを用意し、実験対象区間を利用した回数を記入する。
- ・実験終了後、カードを回収し、モニター車両ごとに利用回数を集計する。
- ・また、モニター登録車両のナンバー、利用時間、利用区間等を申告してもらおうと共に、必要に応じて領収書等を確認すること等により虚偽がないよう努めるものとする。

4. 広報・PR計画

4-1. 広報・PR計画

広報・PR活動として、社会実験実施（実験前、実験中）の広報、社会実験による効果の告知を行う。効果的な社会実験を実施するために、以下の項目の広報・PR活動を実施する。

広報媒体	依頼先、配布・設置箇所	11月	12月	1月	2月	3月
		18	1 20	15	15	
道路掲示板	国土交通省 ・国道2号 ・国道54号 ・国道31号	事前PR	実験PR	事前PR	実験PR	
横断幕	国土交通省 ・国道2号 ・国道54号 広島県 ・広島湯来線 ・広島中島線 廿日市市	設置				撤去
立て看板	日本道路公団 ・志和IC ・広島東IC ・広島IC ・五日市IC ・廿日市IC	設置		一部撤去 設置		撤去
ホームページ	広島国道事務所	公開	随時速報公開			実験結果公表
テレビラジオ	民放テレビ局 (CM15秒) RCCラジオ、FM各局 (CM20秒)		適時OA		適時OA	
広報誌新聞	広島国道事務所 ・安芸の道 タウン情報ひろしま 新聞 ・中国新聞 ・朝日新聞 ・読売新聞 ・毎日新聞 ・日本経済新聞		適時掲載		適時掲載	
チラシポスター	日本道路公団 (SA、PA) 官公庁 (市役所、区役所、 警察署) 広島県トラック協会 国道2号沿道施設 (休憩所、コンビニ)	配布、設置				実験結果公表
ステッカー	モニター登録車両	配布				

4-2. 道路情報板、横断幕、看板設置一覧

道路情報板

依頼先	路線名	番号	型式	地点名	方向	依頼先	路線名	番号	型式	地点名	方向		
国土交通省	国道2号	A-1	A-2	岡山県	八木山	下り	国土交通省	国道2号	A-20	A-1	広島県	井口	上り
		A-2	A-2		浅川	下り			A-21	A-2		阿品	上り
		A-3	A-1		青江	下り			A-22	A-1		大竹	上り
		A-4	A-1		大西	下り			A-23	HL-3		立石	上り
		A-5	A-1		大谷	下り			A-24	HL-3		野口	上り
		A-6	A-2	山口県	里庄町新庄	下り			A-25	A-2	浦山	上り	
		A-7	A-2		瀬戸	下り			A-26	HL-3	富海	上り	
		A-8	A-2		城町	下り			A-27	HL-3	岩淵	上り	
		A-9	A-1		竹原市新庄	下り			A-28	A-2	嘉川	上り	
		A-10	A-1		三永	下り			A-29	A-2	埴生	上り	
		A-11	HL-2	広島県	八本松	下り			A-30	A-2	印内	上り	
		A-12	A-1		瀬野川	上り			A-31	HL-2	大宮	下り	
		A-13	A-1		東海田	下り			A-32	A-1	中筋	下り	
		A-14	A-1		堀越	上り			A-33	HL-2	安古市	下り	
		A-15	A-2		東雲	上り			A-34	A-2	八木	上り	
		A-16	HL-3	大手町	下り	A-35			A-1	清河	上り		
		A-17	A-1	庚午	下り	A-36			A-1	粟屋	上り		
		A-18	A-1	高須	下り	A-37			HL-2	三次三原	上り		
		A-19	A-1	高須	上り	国道31号			A-38	A-2	広島県	坂	上り

横断幕

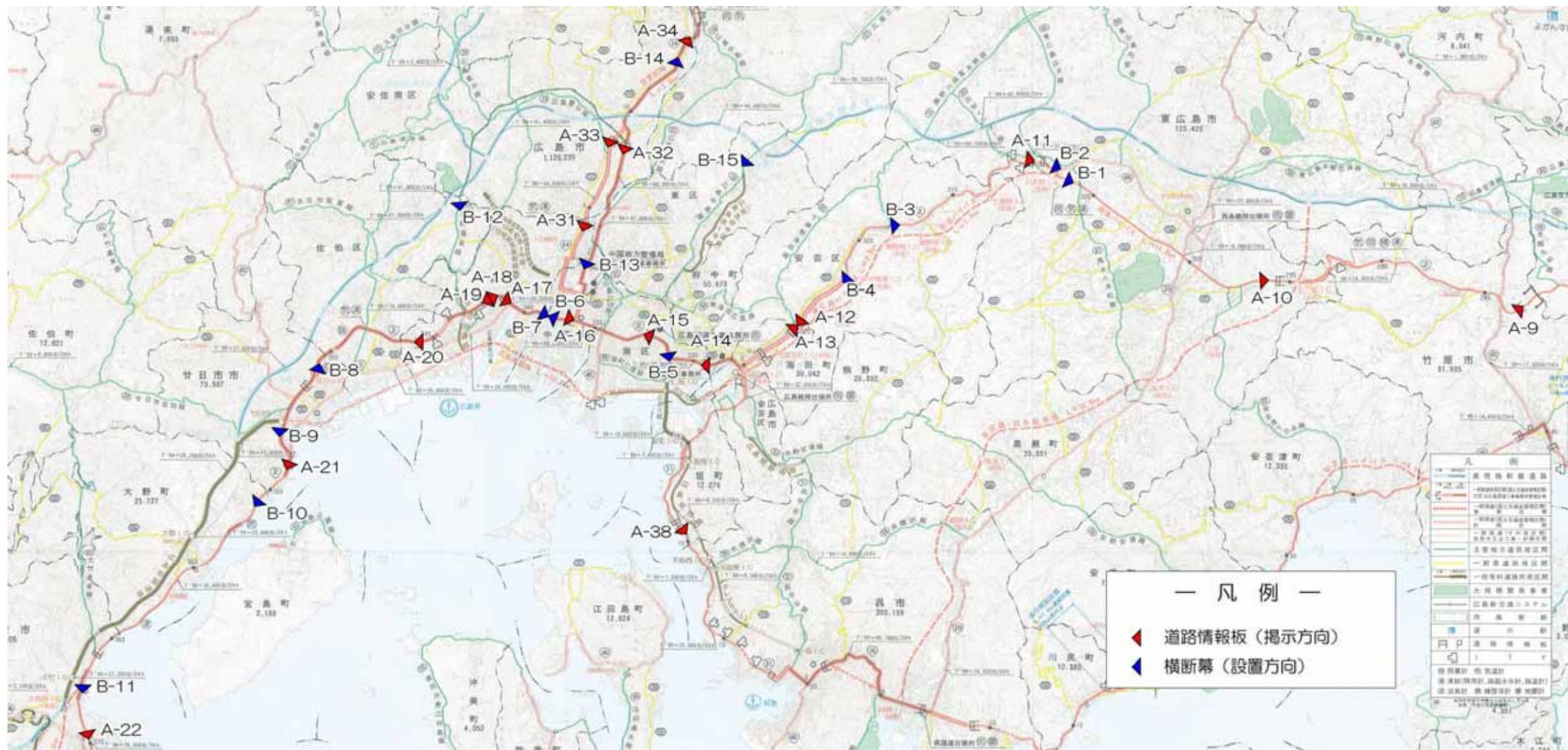
依頼先	路線名	番号	設置箇所	設置方向	サイズ
国土交通省	国道2号	B-1	西条バイパス5号横断橋	東側	
		B-2	八本松西横断歩道橋	東側	
		B-3	小浦歩道橋	東側	
		B-4	平原歩道橋	西側	
		B-5	淵崎陸橋	東側	
		B-6	神崎陸橋	西側	
		B-7	新観音橋東詰付近陸橋	東側	
		B-8	西広島バイパス佐方SA佐方人道陸橋	東側	
廿日市市		B-9	鹿の子陸橋	西側	
国土交通省	国道2号	B-10	宮島競艇前陸橋	西側	
		B-11	大竹歩道橋	西側	
広島県	広島湯来線	B-12	半坂陸橋	南側	
国交省	国道54号	B-13	白島北駅交差点陸橋	南側	
		B-14	別所歩道橋	北側	
広島県	広島中島線	B-15	福木歩道橋	北側	

サイズ： W 8000mm x H 850mm、 W 5000mm x H 850mm

立て看板

依頼先	路線名	番号	設置箇所	設置箇所	設置個数	
					一般道路側	高速道路側
日本道路公団	山陽自動車道	C-1	志和IC	志和IC	5個	7個
		C-2	広島東IC	広島東IC	6個	7個
		C-3	広島IC	広島IC	8個	11個
		C-4	五日市IC	五日市IC	6個	7個
		C-5	廿日市IC	廿日市IC	5個	7個
計			5箇所	5箇所	30個	39個

道路情報版・横断幕位置図



道路情報板

型式 (文字数)		A-1 (16×1段)	A-2 (16×2段)	HL-2 (6×4段)	HL-3 (10×3段)
					
第1クール (5割引)	実験前 (11/19～11/30)	12月 山陽道 大型車料金割引実験	12/1～20 山陽道料金割引実験 大型車5割引 廿日市IC～志和IC間	12/1～20 大型割引実験 志和IC～廿日市IC間	12/1～ 大型車対象 山陽道料金割引実験 廿日市IC～志和IC間
	実験中 (12/1～12/20)	20日マデ 廿日市～志和 大型5割引	12/20まで 山陽道料金割引実施中 大型車5割引 廿日市IC～志和IC間	12月20日まで 志和IC～廿日市IC間 大型車5割引	～12/20 大型車対象 山陽道料金割引実験中 廿日市IC～志和IC間
第2クール (8割引)	実験前 (12/21～1/14)	1月 山陽道 大型車割引実験	1/15～2/15 料金割引実験 大型車8割引 廿日市IC～志和IC間	1/15～ 大型車8割引 志和IC～廿日市IC間	1/15～ 大型車対象 山陽道料金割引実験 廿日市IC～志和IC間
	実験中 (1/15～2/15)	2/15マデ 廿日市～志和 大型8割引	2/15まで 山陽道料金割引実施中 大型車8割引 廿日市IC～志和IC間	2月15日まで 志和IC～廿日市IC間 大型車8割引	～2/15 大型車割引 山陽道料金割引実験中 廿日市IC～志和IC間

横断幕

区間・期間限定 **志和IC～廿日市IC間の全IC**
 対象 **中型車・大型車・特大車**
 広島地区国道2号沿道環境社会実験協議会

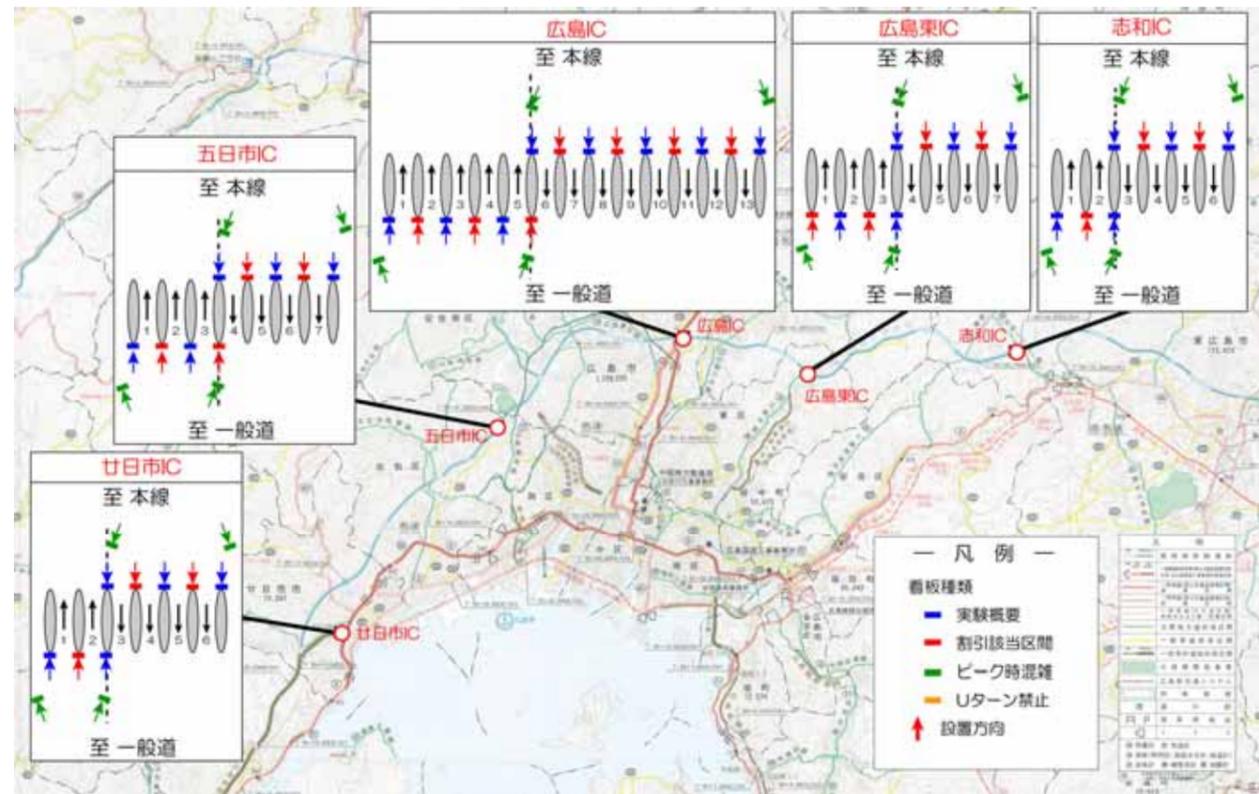
国道2号の沿道環境改善のため社会実験実施中!! 中型・大型・特大車は山陽自動車道へ!

24時間 OK! 2004年12月 約 **5割引** 特別割引
 1日～20日

2005年1～2月 約 **8割引** 特別割引
 1月15日～2月15日

(W8000mm×H850mm、W5000mm×H850mm)

立て看板設置位置図



立て看板設置
イメージ (志和 IC 入口側)
実験概要
割引区間、車両
ピーク時混雑



立て看板設置
イメージ
Uターン禁止



実験概要

広島地区国道2号沿道環境社会実験
「使える」ハイウェイへ!!
トラックEco作戦
国道2号の
沿道環境改善のため
中型車・大型車・特大車は
山陽自動車道へ!

対象
中型車
大型車
特大車

24時間
OK!

区間・期間限定
志和IC～
廿日市IC間
の全IC

2004年12月1日～20日
特別割引! 約5割引

2005年1月～2月15日～2月15日
特別割引! 約8割引

広島地区国道2号沿道環境社会実験協議会

割引該当区間、車種

広島地区国道2号沿道環境社会実験
「使える」ハイウェイへ!!
トラックEco作戦
廿日市 五日市 広島 広島東 志和

山陽自動車道
志和～廿日市間のIC
のいずれかで乗りかつ
降りた場合のみ
割引されます。
中型車・大型車・特大車
限定

広島地区国道2号沿道環境社会実験協議会

ピーク時混雑

広島地区国道2号沿道環境社会実験
「使える」ハイウェイへ!!
トラックEco作戦

朝7時から朝9時までの
通勤時間帯は志和ICで
特に渋滞が予想されますので
オフピーク利用での
ご協力を
お願いします。

広島地区国道2号沿道環境社会実験協議会

Uターン禁止

広島地区国道2号沿道環境社会実験
「使える」ハイウェイへ!!
トラックEco作戦

Uターンは
下さ遠い慮

広島地区国道2号沿道環境社会実験協議会

(H1200mm x W600mm)

4-3. ポスター・チラシ配布先

依頼先	配布箇所	配布枚数		備考
		ポスター	チラシ	
日本道路公団	中国支社	30	2,000	
	奥屋PA	5	500	
	沼田PA	5	500	
	宮島SA	5	500	
国土交通省	中国地方整備局	10	300	
	広島国道事務所	50	1,000	
広島県		50	4,000	
広島市	市役所	10	2,000	
	中区役所	5	300	
	西区役所	5	300	
	南区役所	5	300	
	東区役所	5	300	
	安佐南区役所	5	300	
	安佐北区役所	5	300	
	佐伯区役所	5	300	
東広島市		10	300	
廿日市市		30	500	
広島県警	県警本部	5	300	
	高速道路交通警察隊	5	300	
	竹原警察署	3	100	
	西条警察署	3	100	
	海田警察署	3	100	
	呉警察署	3	100	
	広島東警察署	3	100	
	広島北警察署	3	100	
	可部警察署	3	100	
	広島中央警察署	3	100	
	広島南警察署	3	100	
	広島西警察署	3	100	
	廿日市警察署	3	100	
大竹警察署	3	100		
広島県トラック協会		2,000	20,000	
国道2号沿道施設	大竹市ファミリーマート	214	14,500	
	大竹市ポプラ			
	小野町役場前ファミリーマート			
	佐方SA			
	中野東ポプラ			
	瀬野ポプラ			
	八本松サンクス			
	三永セブンイレブン			
	竹原セブンイレブン			
	竹原ワコー			
	本郷セブンイレブン			
本郷ドライブイン・ポプラ				
その他				
合計		2,500	50,000	

ポスター



(ポスター：A2、チラシ：A4)

チラシ(表)

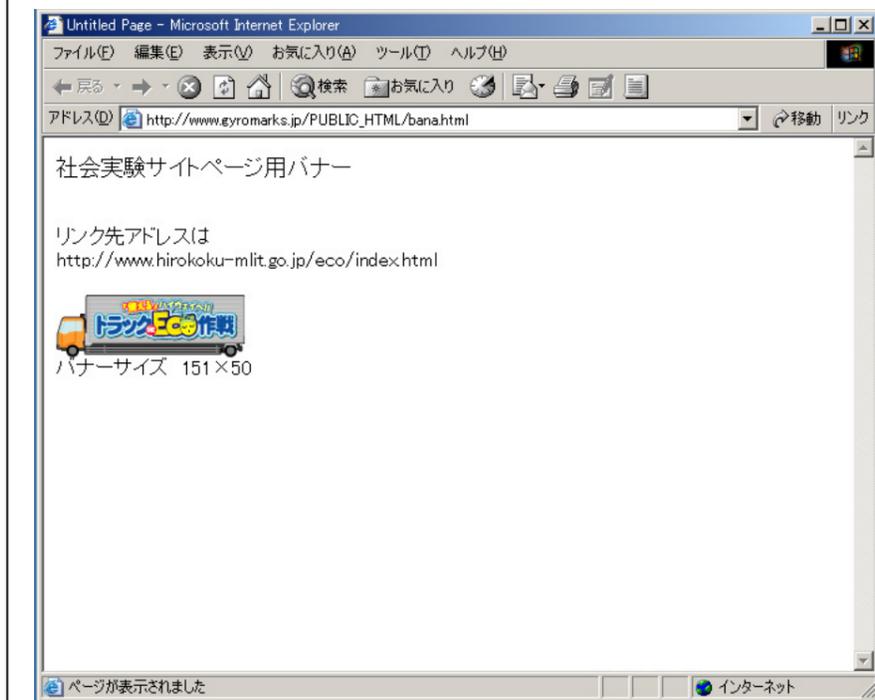


チラシ(裏)



4 - 4 . ホームページ (広島国道事務所)

社会実験サイトページ用バナー



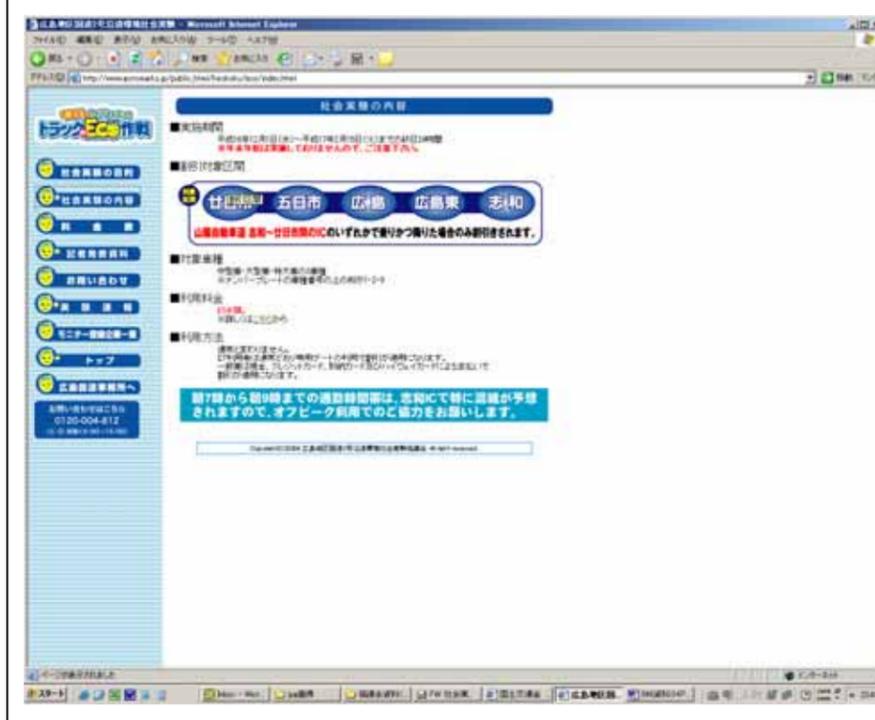
トップページ



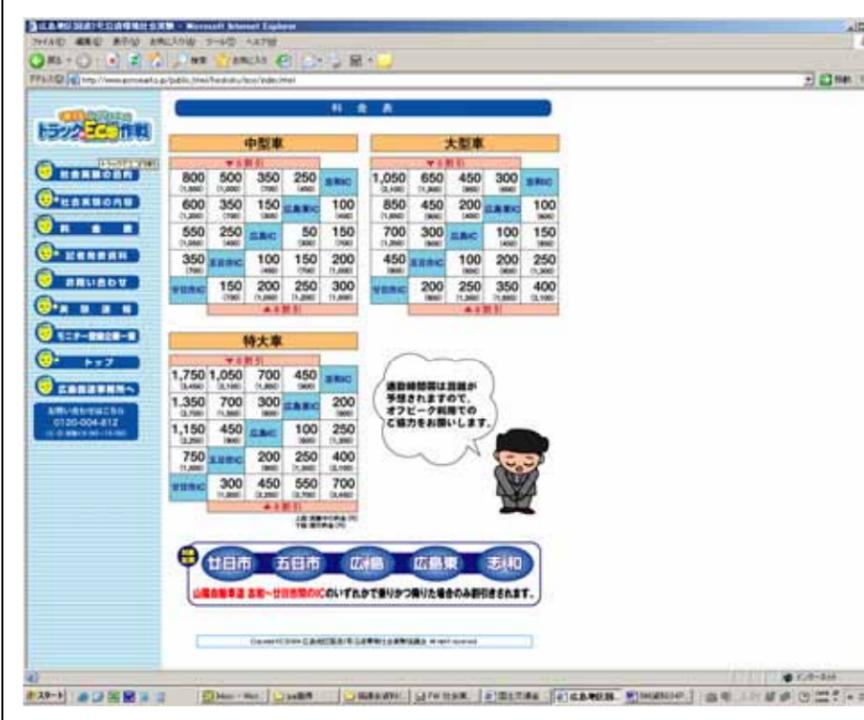
社会実験の目的



社会実験の内容



料金表



お問い合わせ先



